

平成21年度 科学研究費補助金（特別推進研究）
研究進捗評価 現地調査報告書

研究課題名	清朝宮廷演劇文化の研究	研究代表者名 (所属・職)	磯部 彰 (東北大学・教授)
-------	-------------	------------------	-------------------

評価コメント (研究代表者へ開示)

本研究課題は、これまで比較的手薄であった清朝宮廷演劇研究を実証的・体系的に構築しようとする重厚な研究であり、中国古典演劇研究の推進にきわめて重要な意義を担うものと評価できる。

研究開始後、1年の内に複数の冊子として研究業績を発表している点や、清朝の時代に北京に入った地方劇が京劇へと発展したとする通説に対し、宮廷演劇から京劇が展開し、地方に影響を与えたとする新知見も注目され、今後さらなる成果が期待される。

ただし、中国文化史における演劇文化の対外的影響の追究にこだわるあまり、中国演劇の影響を物語る資料が残存する可能性の少ない、周辺諸国演劇の研究に比重を置きすぎている観がある。対外的影響研究は、適正な規模に縮小する必要があるだろう。

また、研究内容を清朝宮廷演劇の資料研究と作品研究の二本柱とし、後者を文学的研究・歴史的研究・文化史的研究に細分化するという構造であるからには、文化史的研究のみに大きな比重を置くことは、必ずしも本研究の成果としてふさわしくないだろう。むしろ基礎研究としての資料研究や、文学的研究・歴史的研究の充実こそが、本研究の最大の成果となるよう期待したい。

さらに、欧米の中国研究者や研究機関との連携も必須と考えられるので、そうした点にも今後一層の配慮を望みたい。

上記の課題を含めて、本研究プロジェクトの遂行を念頭に置くとき、研究組織面で清朝演劇史の専門家の数がやや手薄の印象を否めない。諸種の制約はあるだろうが、この面の充実は、今後の展開にとって大事な要素である。